



「9月1日は防災の日です」

今年の夏は、台風が日本列島を通過したり、日本各地で非常に激しい大雨の影響で河川の増水や氾濫に見舞われたりと各方面で被害が出ました。台風の接近や大雨などは事前に予測され、対策を立てることができるにも関わらず、やはり自然の脅威の前には、人間はまだまだ無力であることを改めて思い知らされたように思いました。

話が少し変わりますが、8月25日に星陵台福祉センターで1年に1度行われる防災のリーダー研修がありました。その話の中で、「備えあれば憂いなし」という言葉が心に残りました。阪神淡路大震災から20年以上が経過し、防災意識がだんだん薄くなっていくところがありますが、水をストックしておいたり、火を使えるようにガスコンロの用意とガスボンベの補充をしておいたりすることが、災害が起きたときに必要になってくるという話でした。「災害」と言っても様々な種類がありますが、水害であれ、地震であれ、いつやってきてもすぐに対応できる準備を、日ごろからしておくことが大切だと思います。直接大きな災害を体験したことのない子供たちがほとんどですが、「防災の日」を機会に少しでもご家庭で話をしていただき、災害自体を身近なものとして捉えていただけたらと思います。

今年は、9月6日（水）に、消防署や地域の防災福祉コミュニティとの共催で、防災訓練を行います。この日は、防災全般について体験・学習する大切な時間を過ごすこととなります。初めに避難訓練を全校生で行い、その後に6年生を対象に防災訓練を行います。火災による煙体験、消火活動、救出搬送訓練などが予定されています。各訓練では星陵台ふれあいまちづくり協議会防犯防災部、舞子台防災福祉コミュニティ、苔谷公園コミュニティセンター、舞子台ホームの方々、垂水消防署の隊員の皆さんが、丁寧に指導にあたってくださります。普段の生活の中では経験することのない内容だけに、子供たちにもこの機会にふれて防災に対する意識をしっかりと高めてほしいと思います。

(防災担当 齊藤 浩樹)



防災グッズの
点検と確認を!

